

目的

海と地域を繋ぐ苗床探しとして、「海へ行く・人に会う・体験する・探求する・発信する」コンテンツの調査研究を行う。海と日本PROJECTに係る取り組みが積み上げてきたものを「旅」をテーマに再編集し、新しい海・人・地域との「関係づくり」を実現する

目標

海をテーマにして、海・人・地域をつなげるツーリズムの調査研究とモデル実施に取り組む。アンケートを通じたニーズ調査やマーケット調査の実施を通じた現状の認識とそれに則したツーリズムのブランディング、ツアー造成とモニターツアー実施を2エリアで行う

2023年度実施内容のまとめ

実施①



【アンケート・グループインタビュー・有識者調査実施】
小学生の子を持つ親 1000人へのアンケート調査のほか有識者、現役高校生・大学生から生の声も聴取

実施②



【海と旅モニターツアー in道南】
20代の大学生・社会人を中心としたモニターツアーを実施ウニを入口に地域課題「磯焼け」への興味関心を醸成

実施③



【海と旅モニターツアー in駿河湾】
小学生の親子に向け全3回のおでかけコンテンツを実施ライトな体験から海への興味関心を醸成

量的成果(事業の拡がり)

- ① 小学生の子を持つ親 1000名へのアンケート、10名の有識者へのヒアリング、20名規模の大学ゼミ、3校の高校と連携したグループインタビューを実施。
- ② 「海と旅モニターツアー in道南」「海と旅モニターツアー in駿河湾」をそれぞれお実施。計23名の参加者が参加した。
- ③ 「海と旅モニターツアー in道南」実施によるメディア露出(新聞 2回)。

質的成果(次なる展開への芽)

- ① 各種調査で「一貫するストーリー」「地域人との交流」「生の声・体験の提供」など旅の中核となるいくつかの要素を発見。
- ② 道南では磯焼け解決に取り組む落部漁協・北三陸ファクトリーと初連携。駿河湾では海の手配師・石垣さんと初連携し、地域での連携先が拡大した。
- ③ 道南ツアーでは関心の高い参加者による LINEグループが誕生。大学生の観点、社会人の観点から「海と旅」事業にて今後も連携していく見込み。

2023年度
課題点

- ①エンタメ的な「くずし(面白味)」のポイントをどうつくるかが重要
- ②屋外体験は天候の影響大。事前のオペレーションに練度が必要
- ③地域での深い連携が必須。全国の実施に際し、いかに地域に入っていけるかが課題

2024年度
改善点

- ①くずしのポイントを心得ている外部事業者と連携する
- ②荒天の際に意味ある生体験を提供できる方法を検討・確立する
- ③海と日本プロジェクトの新規関係者などの情報を収集し、熱源を全国から見つける

報告資料



若者に詳しい旅の専門家から、若者の実態について聴取
画一的なものではなく、狭い範囲に深くといった知見を得る



学生にヒアリング調査を実施。旅にはシンプルな楽しさのほかに人生が豊
かになる、成長できるといった楽しさも重要との知見を得る



道南でのモニターツアーでは磯焼けの現状が視覚的にも明らかに。参加者
は大きな刺激を受け「ウニを食べる」マインドから「ウニの問題をどうする
か」といった思考にチェンジ



道南でのモニターツアーの様子。ウニを実際にさばいてみることで、実際に
コブを食べていることを実感。また単に消費するということの難しさ(加工
技術など)も痛感した



駿河湾でのモニターツアーの様子。ドバイ・パリなど世界中の水族館に魚
を卸す、石垣さんと新たに連携。地域の熱源と連携したことで子どもたちが
一気に海のマインドになった



駿河湾でのモニターツアーの様子。海にあまり興味がないといていた参
加者も水中ドローンで海中を覗いた後は、約時間、海中の様子を観察し
ていた

メディア露出

各メディア露出(9月25日時点)

◇新聞掲載回数 計2社 2回

◇イベント数 2回

◇参加者数 23名

新聞露出 計2回

日付	媒体名	テーマ
9月13日	北海道新聞	海と旅モニターツアー in道南
9月15日	函館新聞	海と旅モニターツアー in道南

②函館新聞

海と旅モニターツアー初開催 ウニ捕りや魚さばき体験

© 2023年9月15日 10時38分

森町



魚のさばきに挑戦する参加者

📷 掲載写真を購入

験をさせてもらった。観光について学んでいるので、とても参考になった」と話していた。(北島妙子)

【森】海と食、地域課題を考えながら新しい旅の形を模索する「海と旅モニターツアー in 道南」が、このほど初めて開かれた。10～20代の9人が参加、ウニ捕り体験などを通じて海洋環境について考えた。

日本財団「海と日本プロジェクト」の一環で、9日に初開催。北大水産学部生、立教大等観光学部生、東京都内の社会人と有識者が参加し、一般社団法人海と食文化フォーラムが企画、運営を担った。

この日は森町の掛淵漁港から漁船に乗り込み磯焼け現場を視察。ウニ捕り体験をした後、七飯町東大沼の流山牧場に移動し、捕獲したウニと森町で採れた魚を自らさばき、調理に挑戦。その具材で海鮮丼を作って食べた。その後、八雲町でウニの養殖場を見学し、研さんを深めた。

参加した立教大4年の小河恵美里さん(22)は「漁船に乗ったのも初めて、魚をさばいたのも初めてで、とても貴重な体験



①北海道新聞

回答しており、こうした若者の海離れを減らす体験を通して解消する狙いだ。ツアー初回は、ウニが海産物を食べ尽くす磯焼けを主なテーマとした。参加者は森町の掛淵漁港から船に乗り、ウニ30個を磯焼け現場、七飯町東大沼の大沼流出場、バド・ミッセでウニの殻むきを体験し、「ウニが手の中で殻」。「ウニが昆布を食べている」と、なごみ感を上げた。アレルマツタも自分では、海鮮丼を味わった。八雲町の流山牧場はウニの養殖を見学し、最後に流山の夜祭も楽しんだ。東京から参加したワケメテは「アレルマツタの上野さん(22)は「海と食関係がない人ではないはず。海は環境問題について知ることが多い」と話した。立教大観光学部4年の小河恵美里さん(22)は海に親しむきっかけになる。ツアーは名所を回って写真撮影すること、若者へのアプローチが課題」と指摘した。(足立結)

<参加者が磯焼けを広めるために記事を執筆>

▽参加者より

インターネット上を見ると、磯焼けの知識記事も少ないことに加え、磯焼けの現場をじっくりと取材した記事はまったくありませんでした。そのため、この記事を通して磯焼けの現場を知ってもらえればと思っております。

▽記事

<https://social-egg.jp/umitci-i-monitor-tour/>

磯焼けの現場を見て感じた『早急に対処しないと、日本で海産物が取れなくなる』未来

今回、「海と旅モニターツアー in 道南」に参加させて頂き、ウニと磯焼けについて現地を見て学ばせて頂きました。実際に目の当たりにした感想としては、「**磯焼け問題は非常に深刻**」だということ。すでに沖縄・九州・東海・東北・北海道など全国各地で磯焼けが発生してしまっています。ウニが日本各地の海藻を喰い荒らし、蝗害のように昆布やワカメなどを根こそぎ食べ尽くしてしまっています。

しかし、**水産業者以外の一般の方には、磯焼け問題の深刻さが伝わっていない**ように思います。事実私も、このモニターツアーに参加するまで、ここまで磯焼けが進行していて、海藻や魚が取れなくなっていることを知りませんでした。磯焼けの深刻さを多くの方に知って頂き、官民一体となって日本の海の生態系を守っていく必要があると感じました。

磯焼けについて現地を見て、現場の声を聞いてみたいという方は、今回のモニターツアーを実行して下さった『一般社団法人 海と食文化フォーラム』にお問い合わせ頂ければと思います。

<参加者の行動変容(海と旅モニターツアーin道南)>

- ウニをつかったビジネスを考えたいとの声があった。ウニの販売やシェフを交えたツアーを企画したいとのこと
- 記事にして伝えたい。もっと調べたいとの声があった(前述の記事執筆者)
- 現在住んでいる地域(長崎)の漁師に会いに行ったとの連絡があった
- 参加者の感度が上がり、北三陸ファクトリーのウニの WEB記事などをLINEで送ってくれた

<参加者の行動変容(海と旅モニターツアーin駿河湾)>

- 海に興味がないといていた参加者が、水中ドローン体験後食い入るように海中の映像を見ていた
- お母さまの代理として参加したおばあさまが「次回も私が来たい！参加したい」と声がけしてくれた
- 夏頃に家族でこの海にもう一度来て潜ってみたいとの声掛けがあった
- 海に興味を持ったお父さまがエビの養殖にチャレンジしてみたいと話していた

<海と旅モニターツアーin道南 参加者からの声※抜粋>

- 今回のツアーの内容は、**海の生の声を知る事ができ、とても良い経験になりました。**自分の手で船に乗ってウニを取ってみて、それを自分の手でさばいてみるという流れを行うことで、漁業者の大変さを身を持って知ることが出来ました。
- とっても楽しく学びになるツアー。**次のアクションに繋がっていくと最高だと思います。**
- 運営の皆さまの気の利きようや、機動力の高さ、本当にすごいなと思いました。その中でも、**運営の皆さま一人ひとりの海やプロジェクトに向き合う姿勢を心から素敵だなと思いました。**ぜひ、今後ともよろしく願いいたします。
- とにかく「楽しく学べた」、「大満足」、「また皆さんと一緒に何か企画を考えたい」というのが正直な感想です。私だけではないと思いますが、なんとなく若い世代の子は長く続くつながりをどこかに期待している気がしていて、そこも**是非「つながりの持続性」という言葉で捉えていただけたらと思います。**なので、**今後も若者向けのツアーやる際には連絡先の交換を是非検討していただければと思います。**今回は貴重な経験と、学びの機会をいただき誠にありがとうございました。また皆様と海洋の未来についてお話しできればと思います。
- 今回のツアーはどこか研修のような色が強かったと感じています。そのため、今後に関係性構築もできたことがとても大きかったと感じています。**海の課題、アクション出来る人を巻き込む活動をこれからも参加し応援していきたいです。**
- 20代の意識の高い若者の考えを知ることができ、日本の将来も悪くないと心強く思いました。意見交換ができ、実りが多かったです。

<海と旅モニターツアーin駿河湾 参加者からの声※抜粋>

○参加者した小学生の声

- **ごみが落ちていたら拾いたいです。今日数人いましたが、シュノーケルで潜ってみたいです。ここでしか見られない魚などが知りたいです。**
- **魚は成長すると性別が変わることや興奮すると色が変わることに驚いた。どこの場所に、どれくらいの深さに、どんな魚や生物がいるのか知りたい。**

○参加した保護者の声

- **ニュースでは耳にしていますが、この駿河湾にも沖縄などにいる南の海の魚がいるのを見て、海が変わってきていることを実感しました。**
- **直接川や海に捨てられたわけではないごみも回りまわって海にたどり着くと思ういろいろな考えさせられました。**
- **関東近海でも沖縄の魚が簡単に見つかるのに驚きました。養殖現場の目の前で食べる魚はとても美味しかったです。**
- **(子どもは)最初は緊張していたようですが、ドローン操作や海の様子を直接見ることによって海の現状に興味を持てたようです。干物も大変おいしそうに食べていました。**

＜海と旅モニターツアーin道南＞



磯焼けの現場にいてウニを捕る体験を実施
漁師はすぐ捕るが、
参加者がやるとなかなか捕れない



参加者がウニを割るとたつぷりの昆布が。
コンブの食害を身を持って体験して、海の社会課題に
引き込まれた様子だった



「ウニを食べたい！」という
マインドから、磯焼けの現
場とウニに直接触れたこと
で「海の問題解決！」という
思考にチェンジした



最後の懇親会では各所で参加者・スタッフを問わず、
ウニの社会課題・海の問題について熱い議論が交わされていた

ハイライト

<海と旅モニターツアーin駿河湾>



目の前に富士山！というロケーションに引き込まれていました。



最初に体験した参加者は...



ライトな体験でもロケーション十人で一気に海に興味を持つ子どもが増えた

お魚のことを知るとよりおいしい！と帰りに干物を買えとおねだりしていました。



体験終了後も1時間、水中ドローンのモニターにかじりついて様子を見ていました。